

## 塚本家文書目録解題

本文書群を所蔵していた塚本家は、現在は上越市柿崎区にお住まいだが、江戸時代以来の旧宅は吉川区西野島にあった。平成19年7月16日に起きた新潟県中越沖地震で同家が被災し、塚本家伝来の文書が保管されていた土蔵も大破した。

塚本家では、文書が散逸することなく長く保存され、歴史研究に活用されることを願い、当時の上越市公文書館準備室（現公文書センター）に相談した結果、平成20年6月に上越市へ一括して寄贈されることとなった。

塚本家文書は約1,700点。大部分は近代文書で、近世期のものは10数点を数えるのみである。塚本家は、近世の西野嶋村政の一翼を担う重立ち（おもだち）として活躍し、遅くとも文化2年（1805）ころから酒造業を営んでいたことが知られる。

近世文書のうち古くは、宝永4年（1707）の町田御林に関するもの、宝暦元年（1711）の西野嶋村の割地に関するものなどがある。そのほか、文化2年（1805）の酒株取得をはじめ、酒造に関する文書のまとまりが見られる。

大部分を占める近代文書は、19世紀後半の当主である塚本健治の活動に伴って作製されたものが中心となる。

塚本健治は、天保初年ころの生まれ。家業を継いで酒造業を営み、地域のリーダーとして活動した。明治22年（1889）以降は、新しく誕生した旭村の村会議員を勤めた（西野嶋村は明治22年旭村の大字となり、その後の町村合併により吉川村、吉川町、上越市となって現在にいたる）。

健治は、酒造業のほかにも、広範で多様な経済活動を展開した。羽後国日向村・観音寺村（ともに現山形県酒田市）などで石油採掘や金銀銅山の鉱山開発に挑み、越後と羽後とを頻繁に往来している。また、津川町などで栗の材木や粗朶（そだ）を大量に集め、国内や中国天津の鉄道建設にかかわった。鉱山開発や土木建設業など、ある意味では経営的に危険の多い企業に果敢に挑んでいたことを物語る史料が多く残されている。

明治30年（1897）病を得て、頸城郡立高田病院（現知命堂病院）に入院。同年3月、健治は波乱にみちたその生涯を閉じた。

健治の子息と思われる塚本喜太郎は、一転して教育界に身を投じた。大正8年（1919）吉川村立竹直小学校を最後に引退。のち旭村議会議員、旭村助役を勤めた。塚本家文書は、20世紀初頭の喜太郎の時代で終わる。

（三井物産会社 水品久賢書状綴）（明治20年）  
清国鉄道枕木請負の件、塚本らへ書状の綴

